

後期基本計画（案）の「施策」「施策の柱」の体系の見直しについて

1 見直しの考え方

- (1) 前期基本計画の 42 の「施策」・106 の「施策の柱」をベースに、評価・検証作業により明確化した今後 4 年間の取組の方向性に沿って体系・名称を見直す。
- (2) とりわけ、**人口減少・少子高齢化の進行を要因とした課題への対応を重点化**する。

2 見直しの内容

- (1) 施策 **前期：42 → 後期：43**（新設：1）
- (2) 施策の柱 **前期：106 → 後期：107**（新設：4、統合：1、見直し：10）

3 施策「まちづくりの人材育成・確保」の新設について

(1) 背景

ア 人口減少・少子高齢化の進行により、**まちづくりの各分野で担い手不足が進行・顕在化**

【市民が主役のまちづくり】市民活動団体、自治・地域コミュニティ
 【防災】自主防災組織、消防団員 【健康福祉】医師、看護職、介護職
 【産業・経済】中小事業者の後継者、製造業従事者、建設業従事者、「職人」等の技能労働者
 【農林水産】就農者、農村の支え手 【教育文化】文化芸術活動団体
 【都市基盤】除雪作業員、景観活動団体

イ 担い手・後継者の継続的な確保が求められる中、市内の若者による、まちづくり活動への参加率や市内定住の意向は低い。

【参加率】30代以下：32% 全体：41% 【定住意向】30代以下：62% 全体：72%
 ※ **Uターン者のまちづくり活動への参加率は特に高い。(49%)**

ウ 一方で、人材確保（定住・移住）の好機を迎え、成果も生まれている。

- ・当市に魅力を感じる**移住相談者は増加傾向**（H25：67件 H29：128件）
- ・**市外出身の新規就農者は毎年 10 人程度の確保を継続**（H21～29で 70人）
- ・北陸新幹線の開業、上信越自動車道の 4 車線化による**広域移動の利便性向上**
- ・新水族博物館「うみがたり」、オーレンプラザの整備等により、**まちの魅力や子育て環境が向上**



(2) 対応

まちづくりの各分野における人材不足に歯止めをかけるため、**地域を支え・リードする人材の育成とその確保（定住・移住対策）**の取組を分野横断的に重点化する。

⇒ 人材育成の取組の位置付けを、「施策の柱」から「施策」に上げ、次の柱建てにより推進

基本施策	施策の柱	主な取組内容(各分野で横断的に実施)
1 まちづくりの人材育成・確保	1 人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力向上・課題解決に関心と意欲を持って、行政・地域とともに取り組む人材の創出・育成を推進 ・高齢者や若者、障害のある人、外国人の一人ひとりの能力がいかされ、活躍できる環境づくりを推進
	2 若者等の定住・Uターン者の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛着と誇りを持つ若者の定住促進 ・まちづくりの魅力向上や課題解決の力となるUターン者の増加